

沖研通信ゆいゆーる

第6号
2011年12月25日発行
編集:広報委員会
沖縄県診療情報管理研究会



C O N T E N T S



P2. 第4回診療情報管理セミナー (名桜大学にて)

P3. 第37回日本診療情報管理学会報告 (H23.09.29-30)

P4. 定例勉強会 (沖縄第一病院・H23.09.17)

P5~P7. 「オランダ国際医療の質・安全学会2011」報告

P8. 施設紹介 (県立北部病院・友愛会南部病院)

P9. お知らせ・編集後記



◎第4回診療情報管理セミナー

10月22日（土）名桜大学にて第4回診療情報管理セミナーが開催されました。基調講演「医療訴訟と診療記録について」阿波連法律事務所 赤嶺真也先生、教育講演「医療訴訟への対応と心構え 診療情報管理士の立場から」滋賀県立成人病センター田中一史先生。医療訴訟という関心の高い内容に参加者100名を超える充実したセミナーとなりました。



◎苦情は、私達が襟を正していく大切なもの

「医療訴訟」というテーマに惹かれ、名桜大学に足を運びました。名護の市街地を抜けると、森林浴を浴びるようにして構内に入り深呼吸してみた。日頃の業務の多忙から抜けだした私は、身も心も洗われた気分になり会場入りしました。

赤嶺先生による基調講演では、医療事故の最初のコミュニケーションでの「言葉」は、慎重に対処すべき点を指摘されていました。「原因究明中なので今は何も言えない」、それでは良くない。事実として明らかなことは伝える。「事故から、ある程度時間が経つなら、たとえ大した進展がなくても、現在の確定した情報を伝える」という警句にハッとさせられました。

また、田中先生の教育講演では、客観的事実を記録することの大切さを傾聴させていただいた。私達は、いつ、どの診療記録に開示請求があっても、自信をもって情報提供できるようにすることが基本です。表現は変ですが「統一された鮮度のいい客観的事実の記録」が大切なのだと感じるのです。

私達は、様々な苦情と向き合うからこそ、誠実で安全な医療を提供できる。それを再確認する事ができました。素晴らしいセミナー開催に関係者各位に、深くお礼を申し上げます。

医療法人宇富屋 玉木病院
診療情報管理士 具志堅勝利

◎弁護士として医療に関わる仕事の参考に

私は、医療紛争の代理人や病院の顧問としての仕事が多く、診療記録を見る機会は多い方だと思いますが、診療情報管理や診療情報管理士さんの仕事に関しては知らないことばかりでした。今回、セミナーに参加させていただき、診療情報管理士である田中一史さんの講演を聴いて大変勉強になりました。長きにわたって医療の現場で診療情報管理に携わって来た田中さんのお話は、今後、弁護士として医療に関わる仕事をやっていくにあたってとても参考になります。本当に有り難うございました。

沖縄弁護士会（阿波連法律事務所）

弁護士 赤嶺 真也

◎カルテをめぐる悩みに解決の糸口を見出す

今回セミナーへ初参加いたしました。日頃からカルテをめぐる発生する様々な事象に悩んでいましたが、赤嶺真也先生、田中一史先生のご講演で、解決の糸口を見出すことができました。

また、患者さんと医療者側の公平な橋渡しとして、診療情報管理士の方々が専門的かつ精力的に活動されていることを初めて知り（申し訳ありません）、感謝と共に心強く思いました。

これを機に、診療録にまつわる事柄の勉強をしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

沖縄県立中部病院 内科医師 西平 淳子

◎医療者と同じ岸に立ってカルテを作る

第4回診療情報管理セミナー「医療訴訟と診療記録について」に参加させて頂きました。

弁護士と診療情報管理士の異なる視点から、提訴されないための現場の努めや、提訴に備えた裏方の務めを、時折笑いをまじえながら合わせて3時間のボリュームある講演でした。管理士勉強中の私は、田中先生の「医療者と同じ岸に立ってカルテを作る」というポリシーにとっても良い刺激を受けました。このような機会に得られる刺激を大切に、また日々精進して行きたいと思います。ありがとうございました。

沖縄県立中部病院 院内がん登録担当 仲嶺八紀

「学会に参加してみませんか？」

いつかは学会で発表してみたい！参加してみたい！と思っけていても、学会ってだけで気が引けて…と思っけると、せっかくの機会を逃してしまっますよ。今回は、発表者・参加者の参加記だけではなく、学会の雰囲気も書いてみます。



まずは…学会場で人だかりを見つけたらランチョンセミナーのチケット配布か、書籍販売かドリンクサービスだと思ってください。なぜなら、ランチョンセミナーは無料でお弁当とお茶がついて、さらに講演が聴ける！という夢のようなセミナーです。また、書籍は定価の10%引ですし、



ドリンクはフリーサービスとなっています。そのためランチョンセミナーのチケットは朝の早い時間から列を成しています。興味あるセミナーをチェックして早めに学会場に到着することをお勧めします。参加するだけでも、こんな感じでお勉強しながら恩恵？を受けられるんです。

さて演者になったら…学会場で演題登録をします。今回はスライドを使用する場合で話します。PC が並

ぶお部屋で、USB などて持参したスライドを登録します。ここでは訂正など出来ません。その後は自分の発表するセッションの時間がきたら、該当するセッション会場で次席にかけて待ちます。座長に名前を呼ばれたら、演台へと上がります。演台は、こんな感じてです。



ボタンでもマウスでもスライドはめくれるようになっています。パワーポインターもあります。目線を上げると、たっさんの目が…！！



ま、発表が始まると暗くなるので、あまり目は気にならなくなります。たぶん(笑)発表時間は6分程度。あと2分は質疑応答の時間です。この時間が一番緊張しますが、なんとかなります。発表が終わると、もう特にはありません。自分の興味があるセッション会場で過ごしたり、情報交換でいろいろな人に声をかけたり。かけられたり。懇親会での人脈づくりも大事な経験です。

いかがでしたか？来年は愛知県名古屋市での学会です。学会に参加しましょう！きっと、肥やしになりますって♪ 沖縄県立宮古病院 平良 里絵

○定例勉強会 IN 沖縄第一病院

平成23年9月17日（土）に沖縄第一病院で行なわれた定例勉強会は、「精神疾患（精神と行動の障害）の診断と理解」の演題で小宮山医師（医療法人フェニックス博愛病院）にご講義頂きました。その後の情報交換会は、いつにも増して活発なやり取りで白熱していました。



○小さな一歩から

今回の講義内容はICDコーディングが難しいとされる精神疾患病名について、精神疾患診断が判りにくい理由や、診断方法、ICD分類法等を基本的な考え方（DSM-IV-TR→多軸診断）を元に脳の機能や働き、どの様な状態が脳で起こっているのか、また統合失調症・アルコール依存症・気分障害・うつ病など精神疾患で多い病名の特徴や症状をスライドを通して学びました。

ICDコード付与の難しい事例を症状や状態、現病歴を参考に発症の要因や隠れた精神症状はないか？など、診療情報管理士向けの考え方を分かりやすく講義して戴きとてもスキルアップに繋がりました。

情報交換会では、「医科点数表の解釈」では判断が難しい業務内容や対応方法など、他医療機関との情報交換が出来、普段行なっている業務や対応の見直しに大変参考になりました。

私は今まで、勉強会や交流会になかなか参加が出来ませんでしたが、参加する事により人脈が増え困った時に相談出来る仲間がいてとても心強く感じました。

今後は1人で悩まず意見交換会を利用していきたいと思います。

まずは「勉強会や交流会に参加する一歩から始めて行こう！」と思いました。

医療法人卯の会 新垣病院
医事課 志慶眞 武人

○勉強会でスキルアップ

精神疾患の項目は通教の時にはほとんど触れなかったもので、スキルアップの為と思い参加しました。また、最近うつ病などの精神疾患の発症率が増える中、その点に関して精神科医の生の声が聴けるのでは？という期待もありました。

講義は精神疾患診断の分かりにくい理由に始まり、診断方法、精神疾患の分類と細かく説明があり十分な再確認が出来たと思います。

講義後の情報交換会では、小さな疑問も先輩方が丁寧に教えて下さるので、経験の浅い私はとても勉強になります。今回は「診療録の質の監査で実施されていること」に関して多くの情報交換がなされました。各病院の具体的な事例を挙げての説明だったので分かりやすく、また自施設でも参考になる点が数多くありました。

日々業務をこなす中で、経験や知識不足を感じる事が多々ありますが、沖研の定例勉強会に参加し、医師の講義や諸先輩方の経験談を聴く事でとても勉強になります。これからも勉強会を活用していきたいと思っています。

沖縄徳洲会 南部徳洲会病院
診療情報管理室 與那嶺 千里



○オランダ国際医療の質・安全学会 2011 報告

沖研の副会長 長浜宗敏さんのオランダでの国際学会の参加報告をご紹介します。

皆様こんにちは、沖研副会長の長浜です。今年 4 月 5 日から 4 日間オランダのアムステルダムで開催された「国際医療の質・安全学会」International Forum on Quality & Safety in Healthcare に参加したので報告します。

本学会は、アメリカの独立非営利組織、医療の質・改善研究所 the Institute for Healthcare Improvement (IHI)と、国際的に権威の高い医学専門雑誌を発行しているイギリスの the BMJ Group Ltd.との共同運営のもと、毎年開催されており、今年は“Better Health, Safer Care, Lower Costs”というテーマで、およそ 80 ヶ国より約 2,700 名の医療安全やマネジメントに携わる関係者の参加がありました。

今回、私が国際学会に参加させて頂くことになった経緯は、震災直後で、海外メディアでも連日、震災や福島原発のニュースは報道されていたこともあり、学会を主催する BMJ(British Medical Journal) Group 側から、日本から参加する私たち(阪大チーム)に対して、震災後の医療に関するセッションを企画したいとの相談があり、日本とオランダを中継して、災害に関するスペシャルセッションを行うこととなりました。そのシステム的な運用サポートとして急遽、学会開催の4日前に参加が決まりました。

今回、セッションの企画、事前の準備から、現地での学会運営での接続テスト、舞台の裏で体験した国際学会の運営等を中心に報告します。

1. セッションの中継方法について

当初、学会会場で被災地の状況やメッセージなどをビデオで放映する方法を提案しましたが、現地からの中継が行えないかとの主催者側からの要望があり、機材の整ったスタジオ等を探して行う方法を検討しました。しかし、震災の影響から中継スタジオの確保は難しいと判断し、また学会開催まで時間的な問題、費用等の問題から、Skype を用いたビデオ通話によるセッションの企画を提案しました。

2. Skype を用いたオンラインでのビデオ通話について

Skype については、多くの方が利用されていると思いますが、簡単にその機能について説明しておきます。Skype ではインターネット回線を利用して、無料で音声での会話やビデオ通話を楽しむことができます。利用するには、ホームページからアプリケーションをダウンロードし、パソコン等に、インストール後、利用者情報の登録を行い Skype ID を取得することで利用できます。パソコンに限らず iPhone や Android 端末等のスマートフォンでも 3G や Wi-Fi 環境があれば利用可能です。最新のバージョンでは、有料ですが、3 人以上の参加者でグループビデオ通話も可能です。

私も海外の友人や、家族との会話に Skype や Windows Live メッセンジャーは欠かせません。また遠方での打ち合わせや会議等に参加できない場合でも、ネット環境があれば Skype で参加させて頂いています



Skype を用いた沖縄県診療情報管理研究会のメンバーとの打ち合わせの様 (画面中央のパソコン内が筆者)

3. 現地会場での接続テストと事前打ち合わせ

学会初日(4月5日)に、接続テストとセッションの関係者による事前の打ち合わせが行われました。接続テストでは、学会スタッフルームで、持参したノートパソコンを用いてワイヤレスのネットワーク(Wi-Fi)に接続し、更にそこから携帯電話で接続先である福島医大に連絡をとりながら、Skypeの接続環境を確認しました。その後、学会ディレクターのBMJ, Mark Stuart氏から、日本から参加する演者の先生に対して、セッションの主旨などについて説明が行われました。平行して現地のパソコンの使用した接続テストを開始しましたが、うまくいかず、スタッフルームから本番のメイン会場に移動し、本番環境でのテスト行うこととなりました。本番用のパソコンでの接続を何度か試みましたが、アムステルダム側からのコンタクトが福島医大側にまったく届かない状況が続き、携帯電話で連絡を取りながら現地のスタッフと試行錯誤の結果、Skype IDの誤りに気づき(単純なミスでした)、訂正後に接続がつながり映像や音声、カメラの角度などの調整を行い30分程で接続テストを終了しました。



持参したパソコンで行った接続テストの様相：
日本から参加する演者(パソコン内)に向かって、セッションの主旨を伝える Forum ディレクターの Mark Stuart 氏(BMJ)、奥にはシステム接続を担当した David 氏(学会の会場のスタッフルームにて)

その後、セッションの参加者や関係者による打ち合わせが行われ、会場での震災の説明、現地からのスライドを用いた講演、会場でのディスカッションなどの内容や時間配分など、緻密な打ち合わせが夜遅くまで行われました。



4. スペシャルセッションの開催当日

学会2日目(4月6日)12:00-13:15分にセッションが行われました。直前のKeynoteでは、ボストンからの中継が同じように行われましたが、ときより回線の途切れ、演者の映像が乱れる場面が多く見られ、私たちが企画したセッションでこのようなトラブルが起こらないか不安になりながら、開始までの時間を会場で過ごしました。前のセッションが終わり、休憩時間に会場席からの撮影準備を行っている時、突然会場のシステム担当者から福島に連絡ほしいと呼び止められました。理由はSkypeが繋がらないということでした。急いで舞台裏に回ると、そこに設置された固定電話を使用して福島との音声だけでもセッションが行えるようにしてほしいとの要望でした。慌てて福島の先生に連絡を行い、固定電話からの音声を会場に流す説明を行っている途中で、運よくSkypeが復旧しました。(原因は不明)

ばたばたしているうちに、主催責任者のMark Stuart氏が心配そうな顔をしながら舞台裏に現れ、「これから始まるから、君たちはここに残れ」と言われ、そのまま舞台の裏から、セッションを見届けることとなりました。

セッションでは、BMJ チーフエディターの Dr. Fiona Godlee さんか今回のセッションについて説明があり、続いて会場より、震災の状況を報じた新聞などの記事が紹介され、福島医大から参加するお二人の先生の紹介が行われました。その後、福島からの報告やコメンテーターからの発表などが行われ、約30分間のセッションでしたが、画像や音声の乱れもなく、ストレスを感じることなく無事セッションは終了することができました。

このセッションの様子は、YouTube で視聴することができますので是非ご覧になって下さい。

YouTube Live from Fukushima, Japan



YouTube: Live from Fukushima, Japan で検索

http://www.youtube.com/watch?v=IQm163PM_

4. 学会全体を通じて(運営等で参考になったこと)

1)プログラムの構成について

プログラムが以下のテーマに分けられていました。

1. Safe and reliable care,
2. Service redesign and transformation,
3. Leadership and business management,
4. Clinical improvement and innovation,
5. Patient partnerships
6. Learning education and culture

テーマが大きく分かれて構成されていた為、自分が目的とするセッションを絞り込むことが容易でした。また Event Guide のレイアウトや色の使い方も含め国内の学会で参考にできる点が多くありました。

2) Refreshments の時間設定

4日間の学会の中で、ランチタイム(1時間)以外に、午前と午後にそれぞれ30分間 Refreshment の時間が設けられており、休憩と同時にそれまでに行われたセッションの話題や意見交換を行う時間が設けられていました。このことにより参加者はよりセッションの内容を他の参加者と議論することができると考えます。

3)アイスブレイキングやディスカッションの時間など

セッションが開始される前に次のようなタスクが参加者に課せられる場面がたびたびありました。Find two people you don't know, Shake hands and introduce yourself, Tell them one thing you will do as a result of the Forum. And find more two people you don't know. Perform a high Five and introduce yourself このようなアイスブレイキングは、学会参加している他の参加者やとの交流に非常に有用だと感じられ、また、ひとつの講演が終了すると、その講演に対して、周りの方とディスカッションの時間を設定するような場面が度々、設けられていました。単に参加して講演を聞くだけでなく、他の参加者とディスカッションを行うことで、より講演や発表内容を理解することができると考えます。また、会場によっては、講義スタイルの座席の配置ではなく、ワークショップ形式で席が配置されており、ディスカッションが行いやすい状況を作ることも大切だと感じました。

4)インターネットでの学会の視聴

複数の会場で同時進行するようなスケジュールでは、参加したいセッションや演者の発表を見逃してしまうことがしばしば起こりますが、本学会では参加者全員が全ての keynote や主なセッションを後日インターネットで視聴するこ

ができます。このような取り組みは是非、日本の学会でも取り入れてほしいと考えます。ちなみに本学会4日間の参加費は、開催期間中のランチ代を含めて日本円で約18万円程度とかなり高額です。

なお、今回の国際学会で多数の演題の中から、特に人気の高かった3講演を、BMJ Group との特別な契約により、2011年11月19日(土)ー20日(日)に東京ビッグサイトで開催された「第6回 医療の質・安全学会学術集会」にて日本語字幕入りビデオ映像で紹介させて頂きました。(内容についてはまた何かの機会に紹介させて頂きます)

来年は4月17~20日にフランスのパリで開催されます。

詳細は下記のホームページをご覧ください。

International Forum on Quality & Safety in Healthcare

<http://internationalforum.bmj.com/>

5.最後に

今回の国際学会では、様々な国や医療機関での取り組みやそれぞれの持つ課題などを知ることができました。またこれから医療の質や安全に対する我々の進むべき方向や取り組むべき課題も確認することもできました。Skype を用いたセッションを成功させることや、日本から参加したメンバーの発表等を記録に残すことも大切な目的でしたが、それ以上に後日、資料や映像等を改めて確認すると刺激的な発表が多く、今後の業務に役立つようなキーワードやアイデアを見つけることができました。この事は、自己の知識を深めるだけではなく、今後の業務に活かすよう努力したいと考えます。また、学会に参加することで得た情報や深めた知識をより多くの診療情報管理士に伝える事も私の役割だと考えています。今後、様々な場面で情報提供、活用していきたいと考えます。最後に貴重な経験、知識を習得する機会を与えて頂いた事に心より感謝いたします。



BMJ チーフエディターの Dr Fiona Godlee さんと感動のツーショット (学会会場にて)

今回は、沖縄本島の北“北部病院”南“南部病院”を紹介します。

◎沖縄県立北部病院

当院は、1946年2月に沖縄県立名護病院として開設され、1991年12月の改築移転に伴い、現在の沖縄県立北部病院に名称を変更しました。2008年6月日本医療機能評価機構認定病院認証、2008年7月DPC対象病院承認などの認定を受けた北部の中核病院です。



★北の地からよろしくお祈いします★

<業務内容>

カルテ回収及び編綴、診療情報管理、コーディング、DPC様式1のチェック、レントゲンフィルム管理となっております。

<診療録の形態>

紙カルテとオーダリングシステム（部分）です。

診療録管理室は、本館ではなく別館にあるため、医師や看護師とのコミュニケーションを取りづらいのが難点です。

来年からは電子カルテを導入する予定で、いろいろ検討している状況です。すでに電子カルテを導入している沖研の施設には、運用について確認したいこともたくさんありますので、ご協力おねがいします。

今後も沖研の研修会に参加して、いろいろ勉強していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

診療録管理室 平良 成子



◎社会医療法人友愛会南部病院



優しい室長の国吉副院長と2名のスタッフ

病床198床。うち回復期リハビリ40床、亜急性期52床。緩和ケア、在宅部門にも力を入れております。糸満市にあり慶良間諸島と東シナ海に沈む夕日が見える素敵なロケーションです。

県立から友愛会へ

平成18年4月1日、南部病院は沖縄県から友愛会に移譲されました。県立時代の24年分の診療録の整理は大変な作業でしたが、貴重な体験でした。県立の診療録約5万冊を借用し、IDを紐付けして病歴を継続参照できるよう努めています。

機能評価、電子カルテ、そしてがん登録はじめました…

平成22年10月機能評価Ver.6を取得。マニュアル作りに明け暮れた残業の日々。サマリー記載率100%の達成感。開放感に浸るまもなく電子カルテの導入へ、ああ紙が良かったと実感する今日この頃です。また、本年度から院内がん登録をはじめたばかりで四苦八苦しています。拠点病院のみなさんはじめ会員の皆さん、いろいろ教えて下さい。これからも南部病院をよろしくお願いいたします。 久保田理絵



県立病院時代の診療録

ゆんたく広場 in 第 4 回診療情報管理セミナー



○平成23年度 診療情報管理士認定試験直前対策勉強会のご案内

日 時：平成 24 年 1 月 15 日（日）10:00-16:00

場 所：浦添総合病院 アルカディア 6F ソア

〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖 4 丁目 16 番地 1 号

参加費：1 名につき 500 円（資料代）

対象者：平成 23 年度診療情報管理士認定試験を受験される、
沖縄県診療情報管理研究会の会員、大学生、
専門学生及び、非会員（但し会員を優先します）

定 員：40 名（※申込みは終了致しました）

締 切：平成 24 年 1 月 10 日（火）17:00

***駐車場は使用可能ですが、駐車料金別途 100 円ご用意下さい。**

以上

問合せ先（メールでのみ）沖縄県診療情報管理研究会事務局

oki-jimukyoku@umin.ac.jp

【編集後記】南国沖縄もやっとクリスマスイルミネーションが映える寒さになってきましたね。「沖研通信ゆいめ〜」も早 6 号を迎え、今号は定番の定例勉強会と施設紹介に加え、昨年 10 月に開催されたセミナーや福岡での学会報告と盛り沢山の内容となっています。私は初めて学会に参加し、診療情報管理士の活躍を強く感じる良い機会となりました。会員の皆様はどの様な 1 年でしたでしょうか？

これからも皆様に親しまれる広報誌になる様、広報委員一丸となって頑張っていきますのでご協力、応援宜しくお願いします！忙しい年末年始となりますが、体調に気を付けて良いお年をお迎え下さい。（當銘）

